

第14回くまもとアートポリス推進賞

募集要項

■ 趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残り得る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種イベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

■ 表彰対象

概ね5年以内に竣工(改造、改修、修復を含む)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く)とします。

■ 選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① デザインが優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

■ 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。
事業主(必要に応じて管理者を含む)、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

■ 応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

選考委員(50音順)

北野 隆(熊本大学名誉教授)

武田光史(日本工業大学教授、㈱武田光史建築デザイン事務所代表)

轟 多朗(デザイントドロキ、熊本県文化協会理事)

古谷誠章(早稲田大学教授、スタジオナスカ代表)

星子邦子(オフィスホシコ主宰)

松尾正一(熊本日日新聞社地方部長兼論説委員)

元倉真琴(東京芸術大学教授、㈱スタジオ建築計画代表)

選考経過

募 集 平成20年 9月18日(木)～11月 7日(金) 応募件数43件

書類選考 平成20年12月 1日(日)

現地審査 平成21年 1月17日(土)～18日(日) 現地審査件数11件

最終選考 平成21年 1月18日(日) 推進賞6件、推進賞選賞3件

表 彰 式 平成21年 3月25日(水)

熊本県

土木部建築課

〒862-8570

熊本市水前寺6丁目18番1号

TEL.096(333)2537

FAX.096(384)9820

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/artpolis/>

くまもとアートポリスのマーク



シンボルマークは3つの楕円と1つの小さな丸で構成されています。

3つの楕円は、左から順に「地域/世界」「くまもとアートポリス/熊本」「ひと/地域」が、互いにつながっていることをあらわします。楕円の傾きは地球の地軸の傾き(太陽を中心とする公転軌道に対する地球の軸/南北軸の傾き)と同じ23.5度です。

シンボルマークは、くまもとアートポリスの目標「地球と対話、地球とネットワークに対応しています。くまもとアートポリスは、地域に生活する人々と対話しながら様々な建造物や環境を創造します。同時にこのような活動は、常に地球規模のネットワークとも繋がり、世界的な環境への配慮や地域文化的な広がりをもっていることを示しています。

くまもとアートポリス
kumamoto artpolis

熊本県

kap

2008年度 第14回

くまもとアートポリス推進賞

KUMAMOTO ARTPOLIS

第14回くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 北野 隆

「くまもとアートポリス推進賞」は、「くまもとアートポリス」事業の一環として、質の高い優れた建造物を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的に、1995年より行なわれている事業です。2008年度・第14回目の事業が実施されました。

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」事業には、総数43点の応募作品がありました。応募作品の用途は専用住宅・共同住宅・病院・工場・老人ホーム・庁舎・納屋など、構造は鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造など、規模も大小さまざまでした。

第1次選考の書類審査は、選考委員(7名)が各自の持点10点をA(3点)・B(2点)・C(1点)の3段階に分けて評価しました。各選考委員の評価を集計しますと、作品は分散した結果になり、点数の上位から下位の全作品について討議し、各選考委員の意見も加味しながら、第2次選考の現地審査作品・11作品が選出されました。

現地審査では、設計者へ建築のコンセプトや構造など、事業主には建築の使い方などについて質疑応答がなされました。現地審査では、第1次の書類審査(設計図)では把握できない周辺環境との関係、建築空間の取扱い、素材の感触などが体験できました。

最終的には「推進賞」として「障害者多機能型施設 高森寮」・「松木運輸株式会社」・「ジャングルジムの家」・「Chro-e#01」・「Eucaly2」・「B-house in 島崎」の6作品、「推進賞選賞」として「barn renovation」・「しらすぎおざや」・「済生会熊本病院 外来がん治療センター」の3作品が選ばれました。

これら9作品については、選考委員の先生方が詳細

な講評を述べられていますから、ご覧下さい。

また、これら9作品について、私なりにそのデザイン手法を分類すると次のようになるように思われます。

○設計者は、はっきりしたデザイン・ポリシーを持ち、そのデザインを追求した作品

「Eucaly2」、「Chro-e#01」

○建築の各要素から余分なものを排し、素材・コストなどを最小限にして、軽快さを追求した作品

「松木運輸株式会社」、「B-house in 島崎」

○建築の各要素をできるだけ手づくりにして、人間味あふれる暖かさを表した作品

「ジャングルジムの家」

○地域の自然や風土を生かし、周辺環境に調和したデザインの作品

「障害者多機能型施設 高森寮」、「しらすぎおざや」、「barn renovation」

○最新の技術(Technology)と植栽や自然素材(Nature)を融合させた作品

「済生会熊本病院 外来がん治療センター」

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」の応募作品は、質の高い優れた作品が多くありました。そのため、「推進賞」・「推進選賞」も今までになく多くの作品が選ばれました。今年度は、「くまもとアートポリス」事業の開始から20年になります。その成果が着実に浸透していることが感じられました。



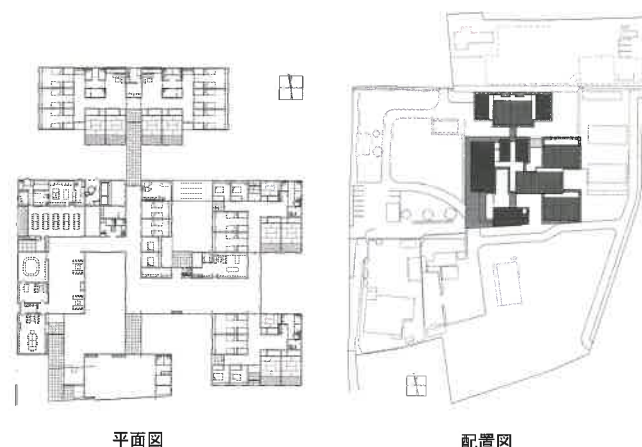
くまもとアートポリス推進賞

78

「障害者多機能型施設 高森寮」

kumamoto artpolis

事業主	■ 社会福祉法人立正福祉会
設計者	■ 有限会社中川建築設計事務所
施工者	■ 株式会社橋本建設
所在地	■ 阿蘇郡高森町大字色見
竣工年月	■ 平成19年7月
用途	■ 障害者多機能型施設
構造	■ RC造一部S造
階数	■ 地上1階
敷地面積	■ 17,979.77㎡
建築面積	■ 2,249.12㎡
延床面積	■ 2,078.65㎡



南阿蘇・高森町。目の前に高岳と根子岳を望む大自然に囲まれた「高森寮」は、昭和52年に知的障害者の施設として開設され、今回、30年の歴史に区切りを付け「障害者多機能型施設」として新しくなったもの。

平屋の建物は、大小10個の屋根が重なり合い、5つのブロックに別れた居住空間と、食堂・デイルーム・作業所・エントランスホールがそれぞれに緑の芝庭に面して、明るくのびのびと配置されている。周囲には柵もフェンスもなく、阿蘇の自然と緑の景観に馴染み、屋外の作業所で活動する利用者や散歩する入居者の姿と一体化して、安らぐ光景を作っている。

施設は、重度の障害を持つ利用者が多いにも係わらず、事業者が管理し易い施設としてではなく、利用者が生活しやすく快適に暮せる環境作りに重点が置かれ、施主と設計者との徹底した話し合いと検討の成果が感じられた。トイレも洗い易さや掃除のし易さより、普通である事を大切にしている。

居室は車椅子や押し車で楽に出入りができることを配慮し引き戸を採用。廊下やデイルームからも自由に入出りできるオープンなシステムとなっている。バリアフリーは、行動を自由にするだけでなく、心を開放する設えも併せ持ち、プライバシーの確保や個人の尊重に加え、好みに応じて持ち込まれたベッドやチェアが、個性ある部屋作りを形成している。

入居者は、多目的室や作業所で仲間と交流したり、居室で寛いだり、掃除を手伝うなど、夫々に過す様子が見られ、障害は一人ひとりの個性と捉えた「皆の家」作りが、地域に開放され溶け込んで、明るく楽しい生活提供の基礎になっていることが窺えた。

起工式・くい打ち・棟上げ・上棟式と、入居者が見守る中で進化したという施設作りは、ホームページにも紹介され、建築物というハードと、障害を持つ方にも自然な暮らしを提供したいという施設運営のソフトが融合し、新しいタイプの障害者施設となっている。

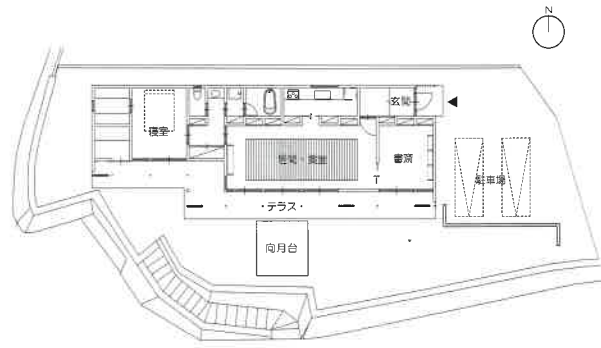
(星子 邦子)

「B-house in 島崎」

kumamoto artpolis



事業主 ■ クリストファー ブッシュ、大村美和
 設計者 ■ 西山英夫建築環境研究所
 施工者 ■ 株式会社富坂建設
 所在地 ■ 熊本市島崎
 竣工年月 ■ 平成20年9月
 用途 ■ 専用住宅
 構造 ■ W造
 階数 ■ 地上1階
 敷地面積 ■ 480.64㎡
 建築面積 ■ 130.64㎡
 延床面積 ■ 106.33㎡



平面図



『いさぎよさ』、『特等席』という言葉が、建物を見ているときに、一緒に廻っている選考委員から聞こえてくる。この二つの言葉こそ、作品を表す最適な言葉であろうと思う。崖の上に建つこの建物は、この二つの言葉を充たすことだけのために計画され、具現化されている。20m×7mのシンプルな長方形。その崖下に向かう全面が、天井から床までの総ガラス窓。カーテンも付けられていない(寝室もカーテンなし)。すなわち、窓に向かえば、遙か眼下に山、町、緑、そして空が大きく広がる。なんでもない景色こそ、飽きのこない景色なんだろうなあ、と再確認する。窓の外に「向月台」が設けられている。そうしてみると、月を存分に楽しめる仕掛けというか、そのためだけに建てられた、『いさぎよさ』、『特等席』という言葉が、再度甦ってくる。簡単に言えば、それ以外の居住空間としての機能は、上記の目的を邪魔しないように手際よく納められている。床の中央部分は木製フローリングで、床暖房。応募用紙にもあったように、予想外の低予算。目的を絞りきった具現化は、施主の様々な提案や希望を誤解なく理解し、カタチにしていた設計者の力量を感じ取ることができた。シンプルということは、そのシンプルさで、明確な目的を発信している。日常生活という煩雑な事々をすっきりとまとめて、ひとつの目的のために簡潔に建てられ、作り上げられたことに、選考委員全員の高評価が集まった。施主ご夫妻も、言葉少なに説明をされながら、ずっと満足の表情で、見て廻っているわたしたちもいい気分。

見終わって、玄関に向かうときに、選考委員の誰かが設計者に、「西山さんは、うまいよねえ。」という声が聞こえた。細部の仕上げも見事で、みんな満足顔で現地選考を終えた。

カーテンなしでは、室内空調はどうなんだろう、とか、立地上、強風にはどのように対処するのだろうかなどの疑問もあるが、そんな疑問も忘れてしまうような気持ちよさをもった家であった。

繰り返しになるが、目的をシンプルにデザインし、具現化した、大人のための素敵な住居として、文句なしの受賞となった。

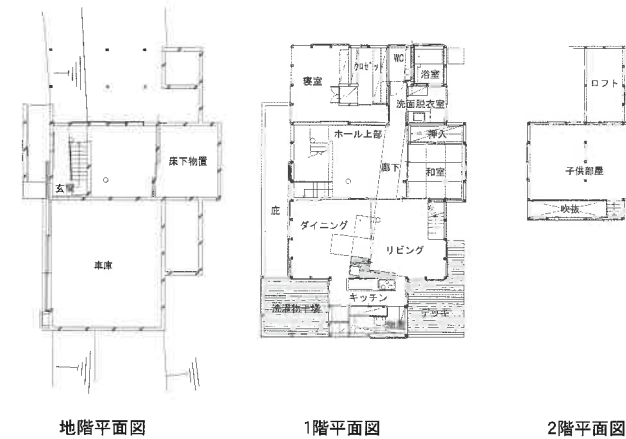
(轟 多朗)

「ジャングルジムの家」

kumamoto artpolis



事業主 ■ 後藤真一郎、後藤祥子
 設計者 ■ 村田建築設計所
 施工者 ■ 有限会社村田工務店
 所在地 ■ 玉名市山田
 竣工年月 ■ 平成20年10月
 用途 ■ 専用住宅
 構造 ■ W造一部RC造
 階数 ■ 地上2階 地下1階
 敷地面積 ■ 1,460.63㎡
 建築面積 ■ 130.61㎡
 延床面積 ■ 181.33㎡



地階平面図

1階平面図

2階平面図



お父さんもお母さんも子供たちも、みんなの元気な笑顔が印象的だ。3層のワンルームのような空間なので気積は大きいけれど、家の中のどこに居ても人の気配が伝わってくる。全面ガラス張りの西壁の外には、手前に大きな柿の木があり、その向こうに素晴らしい森の景色が広がっている。まるで風景と暮す家のような。家族と同様に、この風景も日々の生活の大切なパートナーなのだろう。自然の環境が豊かな敷地を求めて、建築家とクライアントは一緒に探し歩いたという。県立公園を目前に望む急な崖地の、以前はミカンの段々畑が、たどり着いた理想の土地だった。建築家にとってはメラメラと闘争心が燃え上がる場所だが、クライアントも施工者も大量のアドレナリンを分泌したに違いない。格闘技のように、なかば力づくで身の丈以上の段々畑のレベル差と立体格子の複雑なパズルを解いたと想像されるが、不自由さはまったく感じない。応募書類の写真では大味に見えた外観の木製グリットや内観は、大らかという言葉がふさわしく、例えば床から天井までである大型ガラス引戸に仕込まれた通風用の小窓や、フローリングに直接刻まれた障子の溝など、細部にも目がゆき届いている。

台所はいわばこの家の操縦席とも言える場所に据えてあって、ここから屋内のほとんどの場所(部屋)を見渡すことができるし、声も掛けられる。台所が家の中心であって欲しかったお母さんにとって、平面の中心ではなく空間の焦点、という解答は予想以上の満足度だろう。その台所の前に大黒柱ならぬ、枝付きの大黒樹が屋根荷重を受けて立っている。クライアント自ら伐採に立ちあつた木材らしい。そのためだろうか、ありがちな独善性も違和感もなく存在していて、お嬢さんが楽しそうに木登りをするそうだ。僕だって、人目が無ければチャレンジしたかった。

家族の年齢や構成の変化にしたがって、いかようにも変化していく可能性をもった、家族といっしょに育つ家だ。こんな家だったら、毎日が楽しいだろう。建築家とクライアントと施工業者の息(意気)の合った、まさにアートポリス推進賞の意義にふさわしい住宅だった。

(武田 光史)



「Chro-e #01(クローイー#01)」

kumamoto artpolis

事業主 ■ 町頭憲太郎
 設計者 ■ ラッツ・アーキテクト株式会社
 施工者 ■ 株式会社 夢工房 和樂
 所在地 ■ 熊本市上熊本
 竣工年月 ■ 平成20年9月
 用途 ■ 専用住宅
 構造 ■ W造
 階数 ■ 地上2階
 敷地面積 ■ 125.07㎡
 建築面積 ■ 44.71㎡
 延床面積 ■ 86.12㎡

こだわりの「男の家」

住宅の表情はさまざま。キッチンを中心に据えて奥さんの存在感があふれる家もあれば、ご主人の趣味が色濃く反映した家もある。黒一面の壁に囲まれた熊本市の木造二階建て住宅「Chro-e#01(クローイー#01)」は、まさに「男の家」と呼びたくなる一軒だ。

狭い路地に面して、敷地境界まで迫る隣家やアパートに囲まれ、宅地としての条件は良くはない。しかし、周囲に壁を配して外からの視線を防ぎながら適度に光を取り入れ、こぶりの庭に開放感を持たせてゆとりをつくることに成功している。

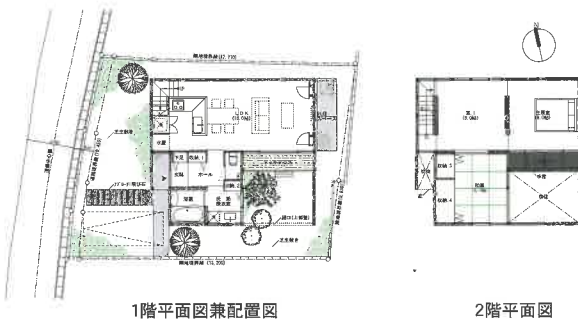
玄関を入れて目につくのは、十六畳のLDKに敷かれた古材のフローリング。奥の壁には薄型テレビが掛かり、間接照明の天井に埋め込まれた外国製のスピーカーから小音量のジャズが流れる。心地よいカフェのようなシンプルで落ち着いた雰囲気だ。

二階の和室は中庭に面した壁の下部をガラス張りにして、樹木の姿を楽しめるようにしたほか、窓の障子は裏表から二重に張り、各部屋の引き戸類の取っ手類を埋め込み式にするなど細部まで細かく神経を行き届かせている。

中でも施主が一番こだわったのは、五回も塗り直したという黒い壁だという。黒といっても墨の味わいで、熊本城の黒壁を連想させるとまで言うては言い過ぎだろうか。

それにしても、仕事の関係で県外に勤めていたころからインターネットで建築家を探し、わざわざ施工例を見に出向いたというご主人の「家」に向けた熱意には感心させられる。「五年かけて建てました」と語る表情は、満足感にあふれていた。

(松尾 正一)



1階平面図兼配置図

2階平面図



「Eucaly2」

kumamoto artpolis

事業主 ■ 株式会社熊本マタニティーサービス
 設計者 ■ ばん設計小材事務所
 施工者 ■ 株式会社松島建設
 所在地 ■ 熊本市島崎
 竣工年月 ■ 平成19年3月
 用途 ■ 共同住宅
 構造 ■ RC造
 階数 ■ 地上3階
 敷地面積 ■ 517.24㎡
 建築面積 ■ 226.78㎡
 延床面積 ■ 571.46㎡

地元の老舗病院の新人ナースのための寮である。施主と設計者の働く人の生活への優しい眼差しが感じられるプロジェクトだ。

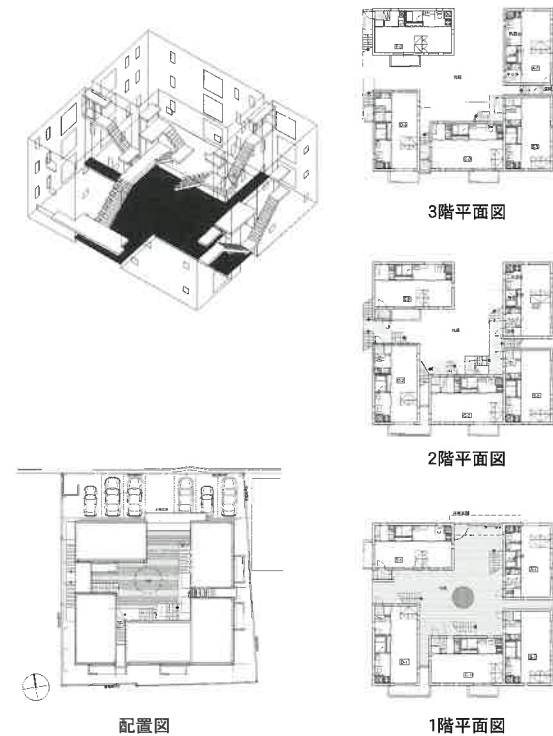
この寮は集合住宅一住まいの集合体としてのコンセプトでつくられている。それも住戸を並べて積み重ねたビルディングタイプをとらず、住戸の単位を決め、それを中庭が形成されるように配置する、集落のような構成をとっている。中庭は15戸のためのアプローチ空間であり、同時に、一緒にみんなで何かをすることもできる共用空間である。デッキの床はここが居間的な場であることを示している。そんな機能的な役割とともに大切なことは、みんなで一緒に住んでいるという気持ちを育む場所になっているということだ。住んでいる人全員が一つの空間を共用している状態を設計者はこの中庭に仕掛けた。1階から2階、3階へ分岐していく階段と踊り場がつくる小さな場を、設計者はよりプライベートに近い外部空間を獲得するためだと説明しているが、私はもっと単純に、立体化された中庭の空間そのものを共有するための仕掛けだと捉えた。

住戸の中に居て、一方はいつも仲間と繋がる中庭に面していて、小さな窓から気配を確認できる。ドアを開ければ、そこには仲間の「居る」空間が展開している。ここにはプライバシーを確保しながら、仲良く集まって住むことのできる住まいの集合体が形成されている。

棟を幾つかに分割したことによって、優れた効果を獲得している。住棟間の適度な抜けは中庭を明るくし、圧迫感のないものにしていく。また周りから見たとき、この建物が周辺の建物とスケールの違和感のないものにしていく。

住戸のプランがとてもいい。2つのゾーンに明確に分けられ、オープンなゾーンも家具の配置によって、住み手が自分のライフスタイルに合わせることが出来る。単純だが多様な住み手に対応できるすぐれたプランである。明るい調子のフローリング、シナ合板の建具、白い壁と天井明るくシンプルなデザインも気持ちが良い。

(元倉 眞琴)



3階平面図

2階平面図

1階平面図

配置図





「松木運輸株式会社」

kumamoto artpolis

事業主 ■ 松木運輸株式会社
 設計者 ■ 上村設計工房
 所在地 ■ 八代市新港町
 竣工年月 ■ 平成20年11月
 用途 ■ 倉庫・事務所
 構造 ■ S造
 階数 ■ 地上1階
 敷地面積 ■ 20,832.68㎡
 建築面積 ■ 8,654.25㎡
 延床面積 ■ 9,037.93㎡

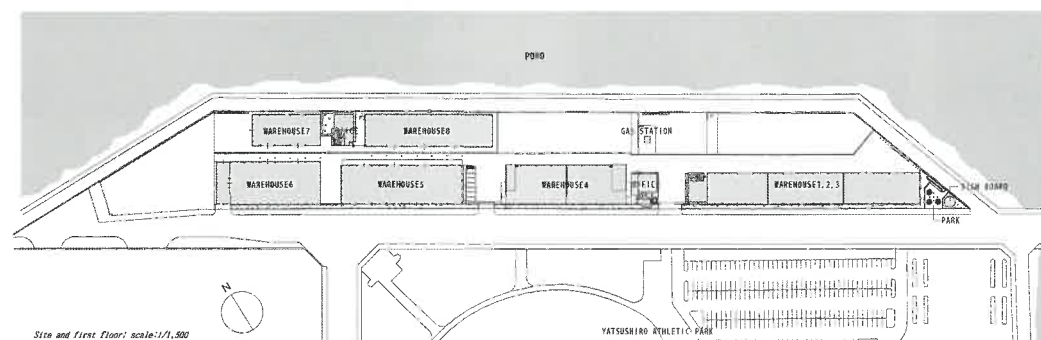
八代港の一面に建つ長さ400mほど連なる倉庫群のデザインである。プロジェクトは2001年に始まり、最初に竣工した1号～3号倉庫が2003年8月、最も新しい8号倉庫が2008年11月に出来上がって、今後も尚もう一棟の計画があり、それが完成するとウェーブする外壁の全長はなんと500mになるという。たまげた計画だ。

開国と共にわが国に西欧文明が到来して、横浜新港埠頭をはじめ全国各地に建設された赤煉瓦倉庫でこそ、今日では貴重な近代化遺産となっているものもあるが、その後の戦後復興からの高度成長と工業化社会の発展を担ったはずの夥しい数の倉庫群は、多くは波形スレートで覆われた効率的だが無味乾燥なものばかりである。機能を満たす必要最低限の建物でしかなく、誰もそれ以上の関心を払わない。そのため多くの日本の水辺空間は、そのローケーションの良さにも関わらず、殺伐とした雰囲気漂っている。

その中でこの倉庫群は傑出している。外壁の材料は何の変哲もない普通の屋根材でありながら約1メートルほどの僅かな(この全長に比べたら、ほんの少しばかりの)振幅の波が、この道沿いの景観を一変させた。夜間にはライトアップされる。単純に美しい。

港湾に生業を営む運輸会社が、その仕事場である「港」をより多くの市民にとっても楽しい空間となるよう、ただの倉庫に美しいデザインを施そうとするその意気込みを讀みたい。西の端に最後の棟が立ち上がる時、そこには水辺に憩う粋なカフェが出来上がるといいなと心待ちにしている。

(古谷 誠章)



全体配置図



「しらさぎおざや」

kumamoto artpolis

事業主 ■ 株式会社シラサギ
 設計者 ■ 有限会社倉田設計
 施工者 ■ 五徳創建株式会社、村上造園
 所在地 ■ 八代市千丁町太牟田
 竣工年月 ■ 平成20年9月
 用途 ■ 有料老人ホーム
 構造 ■ W造
 階数 ■ 地上1階
 敷地面積 ■ 5,750.9㎡
 建築面積 ■ 1,897.3㎡
 延床面積 ■ 1,529.26㎡

長い人生の最後をごく自然に家族や地域社会に見守られて暮らすことが、なんとも難しいことになってしまっている。親より子の、子より孫の世代が増えていくような時代なら、社会を築き支えてきた高齢者は賑やかな共同体の中で余生を過ごすことが出来たが、若い世代ほど人口が減るような今日では、高齢者同士が集まって住む、いわゆる専用の老人施設での生活を甘受せざるを得なくなってしまった。それまで暮らしてきた近隣の環境から根こそぎにされ、まるで挿し木でもされるかのように施設での共同生活が始まる。

この「しらさぎおざや」のコンセプトは、入居者たちのそんなストレスを少しでも和らげ、生活に潤いを感じられるようにと、田園に囲まれた雑木林の中に点在する離れ群、という建築のイメージが形作られている。事業の計画やランドスケープ、内部空間やスタッフのユニフォームなどを含む運営面でのデザインは、すべて事業主の若い娘さんと息子さんが、年季の入った造園家とともに構想したものだ。その上で何人かの建築家に具体的な提案を求めている。市内ですでに高齢者施設を営んでいる事業主は、その子らの発案を後押しして思い切った運営を任せている。高齢者の生活をよりよくするために、若い人たちのアイデアを起用して具現化した決断は並々ならぬものだ。

竣工してまだ日が浅いから、そここの中庭の植物もまだ少しよそよそしいが、これも次第に繁茂して馴染んでいこう。同じように、まだ少し借り物のような感じで暮らしているご老人たちも、そのうちに少しずつこの「村」の住人として次第にこの場所に根を張ることができるだろう。

(古谷 誠章)

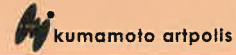


配置図兼平面図

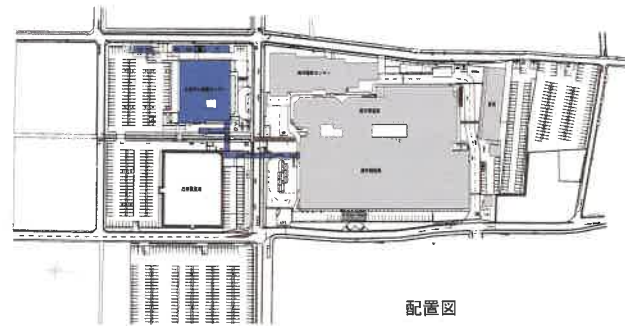


撮影者：写真やったり 服部和洋

「済生会熊本病院 外来がん治療センター」



事業主 ■ 社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院
 設計者 ■ 株式会社東畑建築事務所
 施工者 ■ あおみ建設株式会社
 所在地 ■ 熊本市近見5丁目3-1
 竣工年月 ■ 平成19年6月
 用途 ■ 病院
 構造 ■ RC造一部S造
 階数 ■ 地上4階
 敷地面積 ■ 43,181.49㎡
 建築面積 ■ 2,629.4㎡
 延床面積 ■ 7,073.46㎡



外来と地域連携を中心とした急性期のがん治療をミッションとした「外来がん治療センター」が、済生会熊本病院に隣接して建設された。平成20年「地域がん診療拠点病院」に指定された同病院は、地域全体で高品質な医療をうけることが出来る体制を確保し、その中心的で指導的な役割を担う拠点病院とするために、入院病棟を持たず、通常の自宅生活を過してもらいながら、通院で「がん」を治療する新しいスタイルを構築した。センターは最新医療技術に加え、心のケアを大切にしながら、施設全体を癒しの空間にするという、新しい治療センター作りが目指されている。

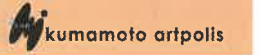
外観は遮光効果を配慮した外装フレームを不規則に配置し、デザイン性を確保した建物。済生会病院本館の2階部分と空中渡り廊下で繋がっており、来訪者を迎える玄関は、正面にエスカレーターが待ち、2階へ近づくごとに緑と光が溢れるライトコートとロビーの空間が視野に広がり、緊張感を和らげながら利用者を迎える。

「森」をイメージしたというライトコートの吹き抜けは、フロアを登る毎に広くなり、植栽の工夫やメンテナンスのためのキャットウォークもアクセントとして加わって、階毎に表情の異なる空間作りの演出がみられた。ライトコートに面したホワイエには洒落た椅子を配し、光と緑で心癒すスペース作りもあり、ガラスのパーティションで仕切られた待合へも優しい表情を投げかけており、検査や治療を受ける患者にとっては、緊張を解す空間にもなっている。ここが最新鋭の放射治療器や化学治療室であり、さらには早期発見・再発防止を目的としたPET-CTなどを備えた最先端の「がん治療センター」であることを忘れてしまいそうな作りである。

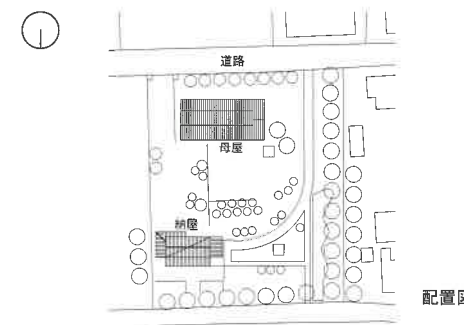
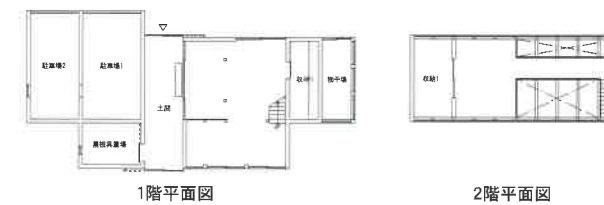
患者とスタッフにとっても、優しい癒しの空間を提供することをコンセプトに計画したというこれまでにない医療空間の創出は、地域連携を柱とした患者や医療従事者の勉強会・研究会・学会に活用されるコンベンションホール内の設計にも、使い易さのための細かな配慮がみられ、地域基幹病院としての大きな存在感が見て取れた。

(星子 邦子)

「barn renovation」



事業主 ■ 赤峰洋次
 設計者 ■ 坂本達哉建築設計事務所
 施工者 ■ 有限会社ウエダホーム
 所在地 ■ 菊池郡菊陽町大字原水
 竣工年月 ■ 平成20年8月
 用途 ■ 納屋
 構造 ■ W造
 階数 ■ 地上2階
 敷地面積 ■ 330㎡
 建築面積 ■ 90.64㎡
 延床面積 ■ 117.23㎡



小さな納屋の改築を、わざわざ建築家に依頼するのはどんな奇特な人なのだろう。そんな興味を抱きながらこのお宅を訪問した。どうやら建築家はオシカケニヨウボウのように、建築家の奥様の実家の隣という近いようで遠い関係のお宅に、勝手に案を作って売り込んだらしい。当然のことながら、建て換えも考えていたクライアントの腰は引けた。しかし、以前からこのお宅の母屋と納屋とお庭にゾッコン惚れ込んでいた若者の熱意を理解して、仕事を依頼することにしたという。実にほほ笑ましい話したが、建物も愛らしいものに仕上がって、今ではクライアントのお気に入りの場所になっている。

建物はオリジナルの木造の躯体を残して、外装と内装を全面的に改修したものだ。スリット状に黒く染めた杉板を貼った外壁が、現代的で奥行きのある表情を見せる。中に入ると黒ずんだ柱梁の古材や白木の床材、漆喰の壁や天井の素材感が清潔で心地よい。シンプルな階段が1階の空間を引き締めていて、それを上がると小屋裏のスペースがある。横架材の梁や天井は頭がぶつかるほど低い。壁と屋根の間に空けられたスリット状の開口部は、軽い浮遊感を醸し出しながら光を満たして、とても効果的だ。そんな空間の中に、クライアントにとって愛着のある品々が置いてある。制度上難しいとのことだが、写真や陶器や生け花などの小展示会の会場として公開できれば、この地域にささやかな『潤いとやすらぎ』をもたらすことだろう。

築100年という母屋と納屋、丹精を込めたお庭の三位一体で、この場所の空気は成立している。納屋が新品になったら、きっと画竜点睛を欠くことになったことだろう。その意味で、建築家とクライアントは幸せ

なマリアーージュになった。こんな素敵な物語も、もしかして『くまもとアートポリス』の20年の歴史から生まれたのだったら嬉しいな〜、とアートポリス事業に参加させていただいた者として思ったのだった。

(武田 光史)

受賞作品一覧 くまもとアートポリス推進賞(第1回～第13回)

第1回 1995年度

- ◆:推進賞 ◎:推進賞選賞
- 所在地
 - 事業者
 - 設計者
 - 施工者



◆11小国町立西里小学校

- 阿蘇郡小国町
- 小国町
- 木島安史+株式会社計画・環境建築
- 株式会社橋本建設



◆12東陽村石匠館

- 八代市東陽町
- 八代市(旧東陽村)
- 木島安史+株式会社計画・環境建築
- 株式会社盛建設



◆13八代広域行政事務組合 消防本部庁舎

- 八代市
- 八代広域行政事務組合
- 株式会社伊東豊雄建築設計事務所
- 大日本土木株式会社、他



◆14株式会社野田市兵衛商店 流通団地営業所

- 熊本市
- 株式会社野田市兵衛商店
- 株式会社ワークショップ
- 株式会社小竹組



◆15清和物産館

- 上益城郡山都町
- 山都町(旧清和村)
- 株式会社石井和雄建築研究所
- 株式会社日動工務店



◆16荒瀬ダムボートハウス

- 八代市坂本町
- 八代市(旧坂本村)
- 桂英昭+AIR
- 山口建設株式会社、他



◆17出田眼科病院

- 熊本市
- 医療法人出田会 出田眼科病院
- 株式会社NTTファミリーーズ九州支店一級建築士事務所
- 株式会社鴻池組



◆18尚玄山荘

- 玉名市
- 有限会社有明総業
- 株式会社竹中工務店九州支店設計部
- 株式会社竹中工務店九州支店



第2回
1996年度



◆19社会福祉法人慈愛園ノーマンホーム

- 熊本市
- 社会福祉法人慈愛園
- 一級建築士事務所かわつひろし建築工房
- 安藤建設株式会社九州支店



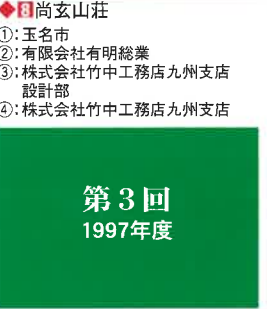
◆20阿蘇白水温泉「瑠璃」

- 南阿蘇村
- 南阿蘇村(旧白水村)
- 杉本洋文/株式会社計画・環境建築
- 住友建設株式会社九州支店、他



◆21ふるさとセンターY・BOX

- 玉名市横島町
- 玉名市(旧横島町)
- 設計計画・石丸事務所
- 株式会社多々良、他



第3回
1997年度



◆22久連子古代の里

- 八代市泉町
- 八代市(旧泉村)
- 株式会社龍環境計画
- 有限会社岩崎建設、他



◆23養護老人ホーム八代市立保寿寮

- 八代市
- 八代市
- 株式会社伊東豊雄建築設計事務所
- 五洋建設株式会社、他



◆24水俣市営洗切団地

- 水俣市
- 水俣市
- 株式会社高木富士川計画事務所
- 若松建設株式会社、他



◆25丸尾焼工房

- 天草市
- クラフト・ワン株式会社
- 有限会社上田憲二郎建築事務所
- 株式会社吉永産業



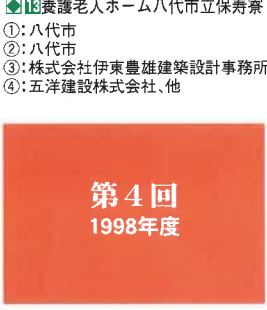
◆26人吉の舎Ⅱ/平井邸

- 人吉市
- 上益城郡嘉島町
- 平井浩二
- ばん設計小材事務所
- 株式会社連水工務店



◆27浮島周辺水辺公園

- 水俣市
- 嘉島町
- 九州ランドスケープ
- 吉川建設有限会社、他



第4回
1998年度



◆28老人保健施設 かがみ苑

- 八代市鏡町
- 医療法人社団司会
- 有限会社野中建築事務所
- 松尾建設株式会社熊本支店



◆29熊本県信用保証協会 八代支所

- 八代市
- 熊本県信用保証協会
- 有限会社風設計室
- 松本建設株式会社



◆30HOUSE:H-M

- 球磨郡あさぎり町
- 山下廣子
- 設計組織・RAM
- 有限会社橋爪建設



◆31水俣市保健センター・水俣市 総合もやい直しセンター

- 水俣市
- 水俣市・財団法人水俣市振興公社
- 株式会社高木富士川計画事務所
- 沢井・和久田・高木建設工事共同企業体、他



◆32古閑邸

- 熊本市
- 古閑和季
- IGA建築計画
- 有限会社鶴田建設



◆33聖母の丘

- 熊本市
- 社会福祉法人聖母会
- 株式会社環境開発研究所
- 株式会社竹中工務店



◆34宮原町下宮はまどん公園

- 八代市永川町
- 永川町(旧宮原町)
- 株式会社計画技術研究所九州事務所、株式会社龍環境計画
- 有限会社有佐樹花園、他



第5回
1999年度



◆35水上村立湯山小学校

- 球磨郡水上村
- 水上村
- 株式会社川崎設計事務所
- 味岡・今村建設工事共同企業体、他



◆36美里町総合交流ターミナル 「石段の里 佐俣の湯」

- 下益城郡美里町
- 美里町(旧中央町)
- 有限会社SDA建築設計事務所
- 株式会社さとうベネック熊本支店



◆37植柳新町公民館 (地域学習センター)

- 八代市
- 植柳新町町内会
- みかんぐみ
- 株式会社米本工務店、他



◆38シルワ・エッセ

- 熊本市
- 森上孝雄
- 有限会社ロクス
- 株式会社岩永組



◆3950M一棟の森美術館

- 阿蘇郡小国町
- 吉村郁夫
- 桂英昭+AIR
- 有限会社鳩野建設



◆40宮崎耳鼻科

- 熊本市
- 宮崎代介
- かわつひろし建築工房
- 株式会社岩永組



◆41矢野邸

- 熊本市
- 矢野敏之
- 森繁・建築研究所
- 株式会社レキセイ



第6回
2000年度



◆42やつしろハーモニーホール

- 八代市
- 八代市
- 株式会社桜樹会・古川建築事務所
- 株式会社銭高組九州支店、他



◆43城南の舎

- 下益城郡城南町
- 小材健治・小材美佐
- ばん設計小材事務所
- 株式会社山口工務店



◆44美里町福祉保健センター 「湯の香苑」

- 下益城郡美里町
- 美里町(旧中央町)
- 有限会社SDA建築設計事務所
- 株式会社岩永組、他



◆45ネクステージビル

- 熊本市
- 株式会社鶴屋百貨店
- 有限会社美創建築デザイン研究所
- 株式会社建吉組、株式会社美創



◆46熊本YMCA阿蘇キャン プメインホール

- 阿蘇市
- 熊本YMCA
- 有限会社風設計室
- 株式会社岩永組



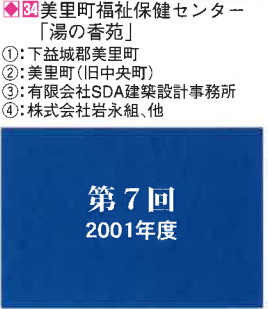
◆47セカンドサイト

- 熊本市
- 丸紅不動産有限会社
- 株式会社アーキグラム
- 清水建設株式会社九州支店、有限会社サンワ工務店

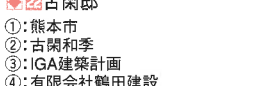


◆48霧の斎場

- 球磨郡多良木町
- 有限会社岡部麗香園
- 設計組織・RAM
- 光進建設株式会社

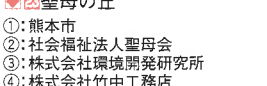


第7回
2001年度



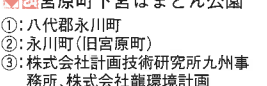
◆49古閑邸

- 熊本市
- 古閑和季
- IGA建築計画
- 有限会社鶴田建設



◆50聖母の丘

- 熊本市
- 社会福祉法人聖母会
- 株式会社環境開発研究所
- 株式会社竹中工務店

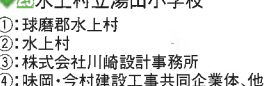


◆51宮原町下宮はまどん公園

- 八代市永川町
- 永川町(旧宮原町)
- 株式会社計画技術研究所九州事務所、株式会社龍環境計画
- 有限会社有佐樹花園、他



第5回
1999年度



◆52水上村立湯山小学校

- 球磨郡水上村
- 水上村
- 株式会社川崎設計事務所
- 味岡・今村建設工事共同企業体、他



◆53荏原九州

- 玉名郡南関町
- 株式会社荏原製作所
- 清水建設株式会社一級建築士事務所
- 清水建設株式会社九州支店



◆54K. Residence

- 熊本市
- 川津貴治
- 森繁・建築研究所
- 株式会社岩永組



◆55つなぎ美術館

- 熊本県津奈木町
- 津奈木町
- 株式会社NTTファシリティー
- ス九州支店一級建築士事務所株式会社植村組、他



◆56神田の舎

- 熊本県津嘉山
- 津嘉山殿
- ばん設計小材事務所
- 光進建設株式会社



◆57ガレリアのある舎

- 玉名市
- 大仁田信一
- 有限会社倉田設計
- 有限会社第一新陽建設



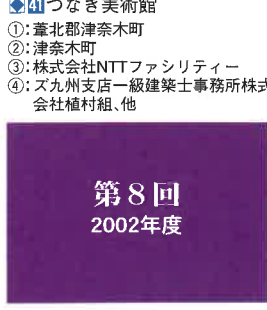
◆58chase

- 天草市
- 山下廣子
- 有限会社現代環境十有限会社ロクス
- 野上建設株式会社



◆59キューネット社員寮「希翔館」

- 熊本市
- 株式会社キューネット
- 株式会社北山創造研究所十株式会社K計画事務所
- 五洋・酒井建設工事共同企業体



第8回
2002年度



◆60久野邸

- 熊本市
- 久野啓介
- 久野啓太郎十一級建築士事務所ヒマラヤ
- 株式会社岩永組



◆61立山山野外保育センター「雑草の森」

- 熊本市
- 久野啓介
- 田崎順二ランドスケーププロジェクト株式会社
- 株式会社富坂建設



◆62八代の町屋

- 八代市
- 坂井和子
- ばん設計小材事務所
- 有限会社鶴田建設



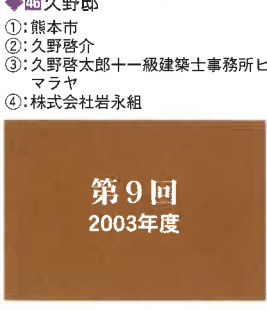
◆63いのうえデンタルクリニック

- 熊本市
- 井上公敏
- 西山英夫建築環境研究所
- 株式会社富坂建設



◆64大野温泉センター

- 熊本県芦北町
- 芦北町
- 株式会社日建設計
- サンエー・松下建設工事共同企業体、他



第9回
2003年度



◆65熊本保健科学大学

- 熊本市
- 学校法人熊本市保育園連盟
- 株式会社佐藤総合計画
- りんかい日産建設株式会社



◆ I-HOUSE
①:熊本市
②:井手秀逸
③:横山俊祐十長野聖二・人間建築探検
④:株式会社三津野建設



◆熊本市現代美術館
①:熊本市
②:熊本市
③:株式会社特設計
④:鹿島・戸田・増永・多々良・勝本建設工事共同企業体



◆UEDA Residence
①:熊本市
②:上田幸一・上田秀一
③:有限会社森繁・建築研究所
④:株式会社山口工務店



第10回
2004年度



◆九州新幹線 新水俣駅
①:水俣市
②:鉄道・運輸機構九州新幹線建設局
③:株式会社西部交通建築事務所十渡辺誠/アーキテツオフィス
④:奥村・白石・光進特定建設工事共同企業体



◆S.W.H
①:阿蘇郡南阿蘇村
②:下村初幸
③:有限会社クロス
④:株式会社橋本建設+有限会社サンユー電気設備



◆田迎の家
①:熊本市
②:三原 紀
③:有限会社U.L.設計室
④:中村建築工房



◆東海大学付属第二高等学校
①:熊本市
②:学校法人東海大学
③:大成建設株式会社
④:株式会社豊工務店



第11回
2005年度



◆ひだまりのまち B4
①:八代郡永川町
②:宮原町B街区優良建築物等整備事業組合
③:有限会社F.U.設計
④:株式会社多々良



◆K-house in 近見
①:熊本市
②:古閑靖浩
③:西山英夫建築環境研究所
④:株式会社東陵建設



◆高瀬蔵
①:玉名市
②:玉名商工会議所
③:株式会社連合設計社市谷建築事務所
④:植野建設株式会社



◆3 Towers
①:合志市
②:上田敏雄・上田民子
③:菊池建築工房
④:有限会社高木ハウジング



◆美里町立中央小学校体育館
①:下益城郡美里町
②:美里町
③:有限会社SDA建築設計事務所
④:株式会社高橋建設



◆玉名温泉つかさの湯
①:玉名市
②:司観光開発株式会社
③:清水建設株式会社九州支店・株式会社フィールドフォー・デザインオフィス
④:清水建設株式会社九州支店



◆堀田眼科病院
①:菊池郡菊陽町
②:堀田明弘
③:グローバルアーキテツチームガット
④:清水建設株式会社九州支店



第12回
2006年度



◆阿蘇の舎
①:阿蘇市
②:松浦朝海
③:ぱん設計小材事務所
④:株式会社山口工務店



◆Nina Dental Clinio
①:八代市
②:川村順子
③:高安重一・遊佐公一/有限会社アーキテツチャー・ラボ
④:株式会社日動工務店



◆西の久保公園
①:天草市
②:天草市
③:株式会社大塚環境計画事務所
④:有限会社天祐建設工業所他



◆"B"-studio
①:熊本市
②:戸次和弘
③:一級建築士事務所ヒマラヤ
④:株式会社九州建設



◆永田歯科
①:熊本市
②:医療法人永田歯科クリニック
③:アクティブ デザイン
④:株式会社日動工務店



第13回
2007年度



◆H-court
①:八代市
②:林田聖二
③:岩瀬隆広建築設計
④:株式会社米本工務店



◆熊本学園大学14号館(60周年記念会館)
①:熊本市
②:学校法人熊本学園
③:野中建築事務所
④:熊谷・小竹・酒井建設工事共同企業体



◆城下町の住宅
①:熊本市
②:下田誠也
③:塩塚隆生アトリエ
④:株式会社建吉組



◆多良木町交流館石倉
①:球磨郡多良木町
②:多良木町
③:かちあデザイン一級建築士事務所
④:肥後環境株式会社、他



◆グリーン、ツイードアンドカンパニーアジアエンジニアリングセンター
①:合志市
②:グリーン、ツイードアンドカンパニージャパン株式会社
③:萩野アトリエ
④:株式会社建吉組



◆AI mall
①:熊本市
②:萩原秀道
③:アクティブデザイン
④:酒井建設工業株式会社



◆コンパスポイント本社ビル
①:熊本市
②:有限会社コンパスポイント
③:株式会社agアーキテツ
④:株式会社建吉組

